

経営比較分析表（令和6年度決算）

岡山県鏡野町 国保病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	6	-	訓	救へ輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
12,017	5,062	第2種該当	-	10：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
48	40	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	88
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
47	24	71

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【】	令和6年度全国平均

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の再編・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	年度	年度

I 地域において担っている役割

へき地医療拠点病院として、鏡野町内3か所の診療所にそれぞれ1～2日程度当院医師5名・看護師2名を派遣し、へき地医療の安定を図っている。また、2次救急病院として夜間・休日問わず救急患者の受け入れを行っている。そのほか町で行われる乳がん検診等に医師を派遣している。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

医師数は常勤8名体制で安定した医療が提供できた。入院患者数が減少する中、令和6年9月から地域包括ケア病床を増床することで入院収益の減少に一定の効果があった。外来収益については、薬剤師の退職により、院外処方へ移行したため大幅な減収となった。経費削減対策としては、購買責任者による医薬品や診療材料等の購入価格の見直しや施設設備管理者の配置によって修繕料の削減を図った。

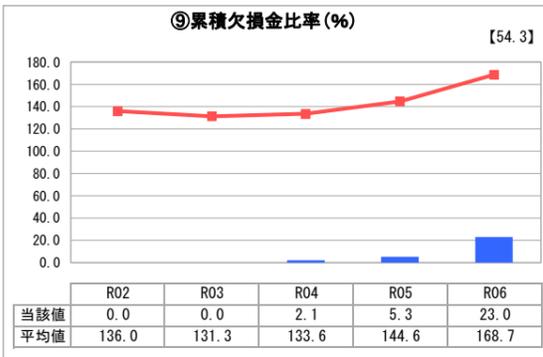
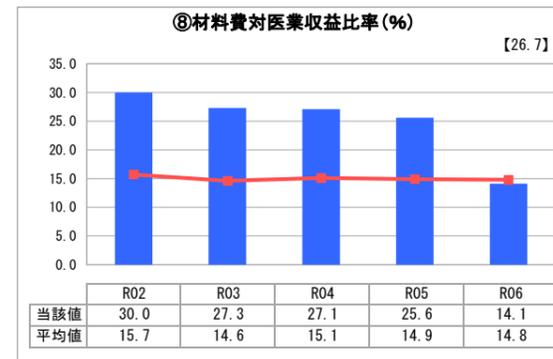
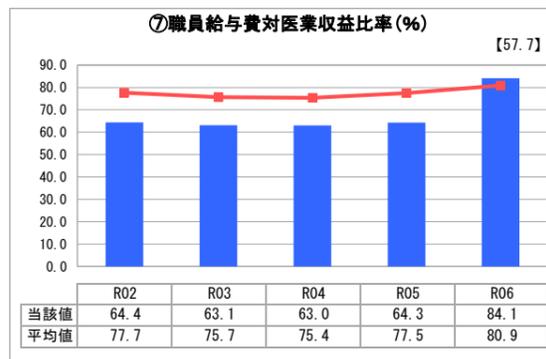
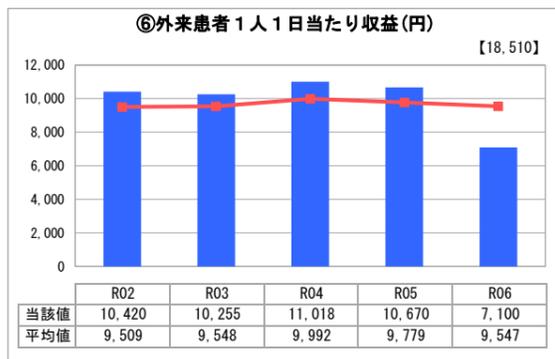
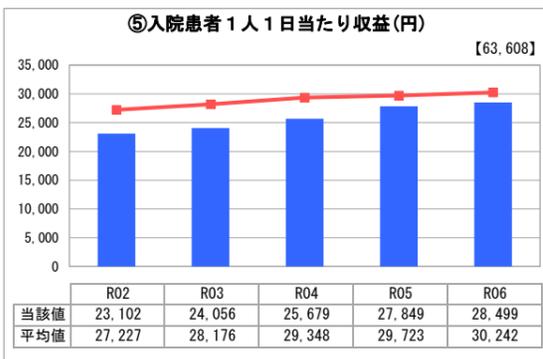
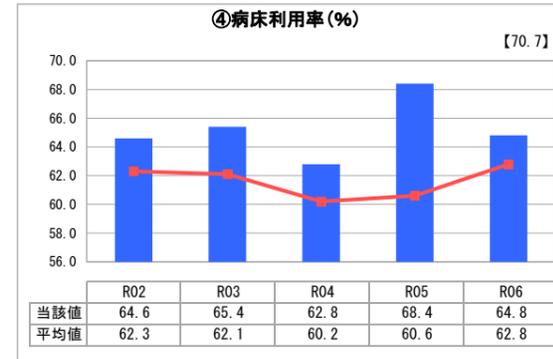
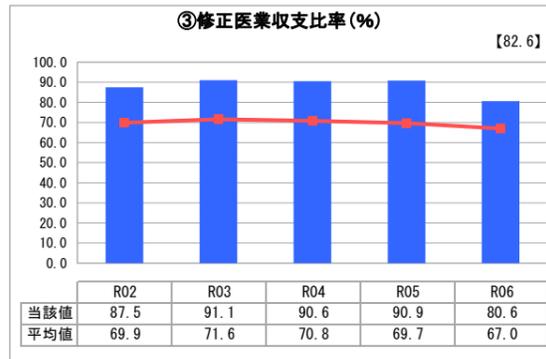
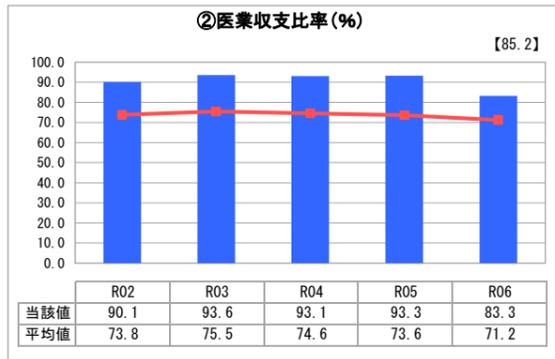
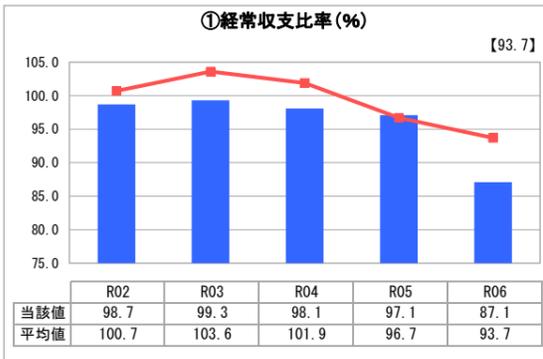
2. 老朽化の状況について

空調設備や給湯設備、排水管等の老朽化が進み、年間を通じて400万程度の修繕料となったが、施設設備管理者を配置したことで早急な対応と修繕費の削減が図れた。医療機器等の機械備品購入については、電子カルテシステムや上部消化管汎用ビデオスコープ等を耐用年数経過により更新した。

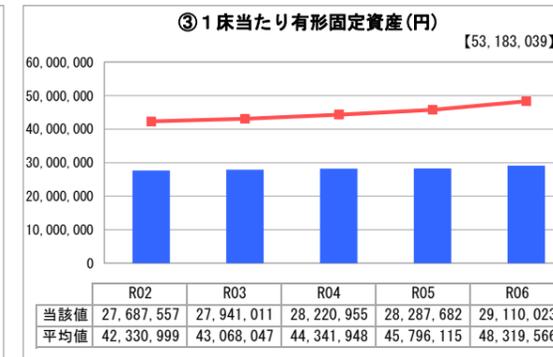
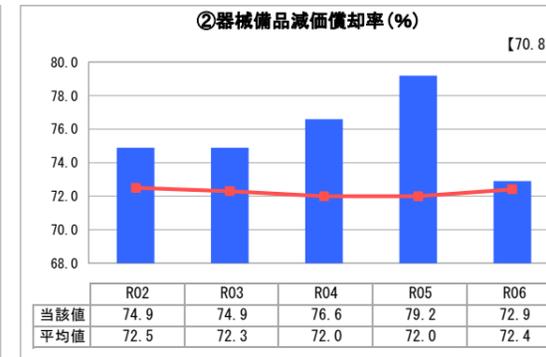
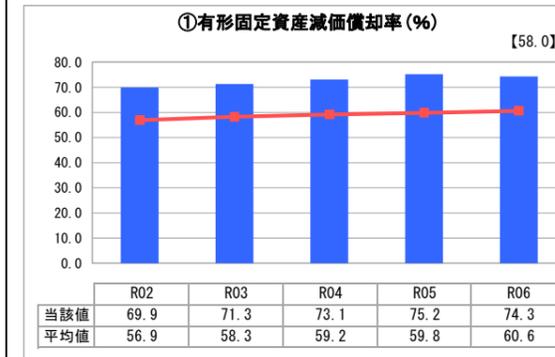
全体総括

一部診療科の縮小と院外処方への移行による外来収益の減少で業収入が伸び悩み、人件費や物価の高騰等による経費の増加で大幅な赤字となった。現状では、へき地医療拠点病院としての役割は果たしているが、持続可能な運営を安定的に行うためにも、引き続き経営改善に取り組んでいく。また、今後ますます進行する施設の老朽化や地域の人口減少等に対応するため、地域包括ケア病床の増床や療養病床の在り方などを含めた病院機能の検討を行い、新病院建設事業も進めていく。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。